

デジタル化資料と連携し、より便利に、より深く
本の万華鏡をリニューアルしました
「第13回 千里眼事件とその時代」を同時公開

国立国会図書館は、8月27日、本の万華鏡「第13回 千里眼事件とその時代」の公開とともに「本の万華鏡」をリニューアルしました。

本の万華鏡では、インターネット上で本文をご覧いただける資料を中心に紹介します。特に、国立国会図書館デジタル化資料と連携した資料は、その全ページを読むこともできます。デジタル化資料と連携し、より便利に、より深く、より深くなった「本の万華鏡」をどうぞお楽しみください。

本の万華鏡 URL: <http://www.ndl.go.jp/kaleido/>

本の万華鏡とは

本の万華鏡は、ある一つのテーマに沿って、国立国会図書館の所蔵する貴重な蔵書を紹介する、インターネット上の展示会です。平成21年5月から数カ月ごとに、時事的なもの、身近で楽しいものなど様々な新しいテーマを掲載しています。

国立国会図書館は資料の電子化を進めており、「国立国会図書館デジタル化資料」(<http://dl.ndl.go.jp/>)では、インターネット上でご覧いただける47万点の資料を公開していますが、「本の万華鏡」のような電子展示会(<http://www.ndl.go.jp/jp/gallery/>)では、検索だけではなかなか辿りつけない、珍しい資料にも光を当てています。



展示解説：小説・映画『リング』の背景にもなった千里眼事件とは…

リニューアルに合わせて公開した「千里眼事件とその時代」では、明治時代末に学界を震撼させ、社会に一大ブームを引き起こした「千里眼事件」を取り上げています。

明治 42 (1909) 年夏のこと、新聞紙上に御船千鶴子という女性の超能力が報じられました。物体を透視するという彼女の能力の解明に乗り出したのが、当時東京帝国大学助教授だった福来友吉博士でした。福来は実験の結果、「透視」や「念写」の能力の存在を主張しますが、学界の認めるところとはならず、事実上大学から追放されてしまいます。展示中の「第 1 章 千里眼実験を読む」では、福来による「透視」や「念写」の実験記録から事件の経過をたどります。なお、鈴木光司氏のホラー小説『リング』に登場する山村貞子の両親は、福来と千鶴子がモデルとされています。



千里眼・御船千鶴子の肖像
(福来友吉『透視と念写』より)

千里眼事件の起きた 20 世紀初頭は、放射線の発見や進化論の紹介など、新しい知識が次々と導入された時代でした。「透視」や「念写」といった超能力も、新しい科学によって解明が試みられ、心理学や精神医学、物理学や生物学など様々な分野において学者たちの議論を引き起こしました。「第 2 章 学者たちの論争を読む」では、こうした議論を整理します。

また、千里眼事件は、マスメディアに大きく報じられ、社会にブームを引き起こしました。「第 3 章 千里眼ブームを読む」では、当時出版されたパロディ小説等から世相をうかがいます。

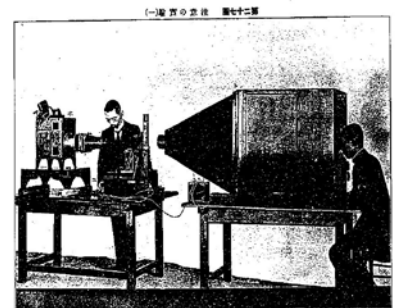
「千里眼事件とその時代」掲載資料（一部）



八千代・弦月『我輩は千里眼』田中書店、明 44. 5
『吾輩は猫である』のパロディ小説。吾輩の妻(猫)が千里眼であるという設定。



三洋堂編『最新秘法大奇術』三洋堂、明 44. 3
手品の種本。「人の書いた字を必ず當てる法(千里眼)」を掲載。



東京帝国大学文科大学心理学教室編『実験心理写真帖』弘道館、明 43. 12
当時の心理学教室が保有していた実験器具を写真入りで紹介したもの。